



## 住みよい町づくりを目指して

津別町議会議長 乃村吉春

町民の皆さん、新年あけましておめでとうございます。平成20年の輝かしい新春を皆さんとともに迎えられることを心からお祝い申し上げます。皆さんには、日ごろから議会並びに町政に対し、深いご理解と温かいご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。顧みますと、一昨年から自主・自立のまちづくり推進計画に基づいた施策が行われていますが、厳しい財政状況から、より一層の行財政改革の推進と事務事業の見直しや住民サービスのあり方の点検と検証が必要になってくるものと思われ、将来を見据えたまちづくりを町民の皆さんとともに、さらに推し進めなければならぬ状況です。昨年の大型景気は、高度経済成長期の「いざなぎ景気」を期間的には越えたといわれていますが、その恩恵を受けているのは関東及び愛知圏域の一部地域のみといわれており、北海道経済にその実感はほとんどありません。

今日指摘されている格差社会の広がり以上に、住民が住み続けられない、生きていけない地域が広がり、地域経済・地域社会が衰退し、疲弊している状況が特に地方で広がっているといわれているなか、三位一体改革の一環として、国から地方への税源を移譲するといった所得税から個人住民税に約3兆円の税収が移されたことにより地域間格差がもつと増幅されたといわれています。これら地方税を取り巻く環境は非常に厳しく、独自財源を求め、税源移譲を求めるほど地域間格差の広がりが懸念されており、今後この矛盾の解決の如何によっては、本町の自主・自立のまちづくり推進計画の行方にも大きく影響してくるものと思っております。このような中で、相生・本岐地区の簡易水道事業における水質保全恒久対策として2力年の継続事業で進めてきた相生浄水場ろ過施設設置工事が完成したことで、安全かつ安定した良質な水道水の供給が可能となり、地域の保健衛生になお一層の貢献が図られるものと思っております。一方、本町の基幹産業である農業においては、春先の低温や播種時期の降雨などの影響で、農作業の遅れや作物の

生育状況の遅れが憂慮されましたが、7月・8月に入ってから集中豪雨により降雨量が平年を大幅に上回ったものの、気温が平年に比べ高かったことと秋の天候も長期にわたって好天に恵まれたこともあって、農作物は順調に生育し、平年を上回る豊穰の秋を迎えることができたことは、大変喜ばしい限りです。また、林産業については、昨年、道産トドマツなどによる合・単板製造施設とバイオマス発電施設を新設された丸玉産業株式会社と津別単板協

同組合が、本格的な操業にはいるという明るい話題もありました。さて、私も議会としましても、より豊かな住み良い町づくりを目指し、さらに創意工夫を重ね、皆さんのご期待に応えるよう決意を新たにしていますので、本年もご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆さんのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。ご多幸を心からご祈念申し上げます。



写真：北海道アート社

## 今年も大好きな津別のために

津別町長 佐藤多一



町民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を心も新たに迎えのこととお慶び申し上げます。さて、冒頭次の一文をお読みください。「果たして町村はこのまま存続しうるであろうか。平成の大合併により、二千五百余あった町村は千近くにまで急減した。今回の一連の合併は地域に何をもたらしたか。本当に地域が活性化したというのであるうか。いわゆる構造改革の影の部分で地方を覆い、いまだ景気回復を実感できないでいる。これらは「地域の再生」というよりも、むしろ「地域の衰退」を招くこととなり、地域間格差はさらに拡大している。」いささか過激な文章ですが、これは昨年11月28日に東京で開催された全国町村長大会での決議文の前文です。三位一体改革による税源の移譲は実感に乏しく、逆に交付税の削減が続く中、行財政改革を行っても行っても将来の不安を消し去ることができない状況に置かれている町村の叫びの言葉です。こうした厳しい状況にはありますが、昨年は津別スキー

場問題、そしてこれに密接に関わるホテルフォレストアイランド問題を決着するとともに、町民の皆さんのご協力を得ながら悪いなりにも比較的順調な財政運営を進めてきたところで、では、平成20年はどのような年にしていくのかといえますと、「この町の形を固めていくとつかかりの年」と考えています。その主なもの一つとして、将来の住環境を展望する「住宅マスタープラン（住生活基本計画）」を策定し、次年度以降その計画に基づき民間の力も得ながら建設にとりかかり「歩いて暮らせる町づくり」を一步一歩進めていきたいと考えています。二つには、津別町は木の町であることから、平成19年度より取組みを開始した「バイオマスタウン構想（化石燃料以外で生物体から得られる循環エネルギーを活用する構想）」を推進しながら、21年度には木質ペレット工場の建設を計画し、まずは中央公民館・プール・庁舎など公共施設での利用を進め、その後一般利用へと拡大していきたいと考えています。三つには、新しい風を吹かせる手法として、この4月から姉

妹都市である南アルプス市との職員の人事交流などを予定し、また、人気のスポーツであるパークゴルフなども活用した船舶橋市や台湾二水郷との町民交流が広がるよう町民の皆さんに積極的に関わっていただきながら活発な交流を展開していきたくと考えています。町を活性化するためのキーワードは、やはり「情報の共有化」であり、できるだけ情報を町民の皆さんに分かりやすく伝えることを心がけ、お互いに議論を深めていきたいと考えています。その意味において昨年、町づくり懇談会

を町内28箇所で開催したところですが、今年に更に意見や提案が出やすくなるような手法を用いながら行うこととし、さらに、町の経済を支える農協、林協、商工会、建設業協会などさまさま団体の方々とも意見交換を行いながら重層的な町づくりを進めていきたいと考えていますので、皆さまの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆さんにとって本年が良い年となりますようご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。